

第2回中野区基本構想審議会 部会（自治・共生・活力）

○日時 令和元年5月10日（金曜日）午後7:00～9:00

○会場 中野区役所7階 第10会議室

○出欠者

1 部会委員

出席者

宮脇 淳（部会長）、横田 雅弘、笠尾 敦司、岡井 敏、岸 哲也
小池 浩子、高橋 宏治、高橋 佐智子、米持 大介

2 事務局

企画課長	杉本 兼太郎
広聴・広報課長	高村 和哉
業務改善課長	森 克久
参事（情報システム課長事務取扱）	平田 祐子
職員課長	中谷 博
産業観光課長	堀越 恵美子
観光・シティプロモーション担当課長	桜井 安名
文化・国際交流課長	藤永 益次
基本構想担当課長	永見 英光

【議 事】

○宮脇部会長

それでは、出席の皆さんおそろいですので、若干針がまだ動いていませんけれども、始めさせていただきます。

ただいまより中野区基本構想審議会の自治・共生・活力部会第2回を始めさせていただきます。終了の目途は9時としたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

なお、事務局が記録のため写真を撮りますので、その点をご了承いただければと思います。

それでは、まず、本日出席をしていただいております区の職員の皆様の自己紹介をお願い

いしたいと思います。

○永見基本構想担当課長

こんばんは。お世話になります。基本構想担当課長の永見でございます。区側の出席職員を紹介させていただきたいと思います。お手元の資料2というものをごらんいただければと思います。こちらに出席者が載っているのですが、こちら今回と次回の出席職員も合わせて載せてありますので、本日いない職員もおりますが、ご了承いただければと思います。

それでは、名簿の順で1人ずつ所属と名前の自己紹介をお願いします。

○杉本企画課長

企画課長、杉本です。どうぞよろしくをお願いします。

○高村広聴・広報課長

広聴・広報課長の高村です。よろしくお願いいたします。

○森業務改善課長

業務改善課長の森でございます。よろしくをお願いします。

○平田情報システム課長事務取扱

情報システム課長事務取扱、平田でございます。

○中谷職員課長

職員課長の中谷です。よろしくをお願いします。

○堀越産業観光課長

産業観光課長の堀越と申します。よろしくお願いいたします。

○桜井観光・シティプロモーション担当課長

観光・シティプロモーション担当課長の桜井です。よろしくお願いいたします。

○藤永文化・国際交流課長

文化・国際交流課長の藤永です。

○永見基本構想担当課長

以上でございます。

○宮脇部会長

よろしいですか。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、次に事務局のほうから、本日の配付資料についてご説明をいただければと思います。お願いいたします。

○永見基本構想担当課長

それでは私のほうから、配付資料、またテーマについてのお話をさせていただきたいと思います。

自治・共生・活力部会でございますが、今回と次回の2回で5つの重点テーマというものを設定させていただきました。そのうち今日は2つ、次回が3つということで予定をしております。本日のテーマですけれども、1つ目が「区民と協働・協創する自治体」、それから2つ目が「違いを力に変える多様な連携」ということで設定をさせていただいております。

資料のほうですけれども、3-1というパワーポイントをプリントした資料をごらんいただければと思います。こちらに中野区の現状に関する幾つかのデータなどを掲載させていただきました。こちらの資料にあることだけを話さなければならないということではありませんので、このテーマに沿ってこの資料以外のこともお話しいただいてももちろん結構でございます。

最初は「区民と協働・協創する自治体」でございますが、全体会のときに区長のほうから「自治体 3.0」という言葉もありましたけれども、これから自治体が区民の皆様と新たな関係を結ぶために区としてどうあるべきかという、そのようなことを検討しております。1つ1つ細かく紹介することは難しいのですけれども、最初は意見交換会等の実施状況ということで、中野区では計画などを定めるときに区民の皆さんからご意見を聞いたり、そういった機会を設けておりますが、その状況。それから区政情報の入手状況や、また発信、それから予算策定プロセスの公表ということも行っております。

それからオープンデータに関する自治体の取り組みの状況、それから中野区の職員の数や仕事に関する割合の情報、それから中野区において区民と区の職員が協働して行っているような取り組みの紹介というものが資料として載っております。こういったものを参考に、区民の皆様と協働・協創する自治体というものを実現するためにどんな視点で取り組んでいくかということについて、さまざまなご意見をいただければと思っております。

2つ目のテーマでございますが、「違いを力に変える多様な連携」ということでございまして、近年外国人の増加であったりとか、性に対する考え方の多様化など、様々な変化がございます。ダイバーシティという言葉もよく使われております。そういった中で、資料といたしましては、最初の資料は中野区が100人だったらというような形で参考までに書かせていただいております。

それから国際交流、多文化共生に関する中野区の取り組み状況でありますとか、外国人住民に対する多言語対応、性別が同一のお2人の方がパートナーシップの関係であることを誓うパートナーシップ宣誓というのも中野区では始めております。そういった取り組みに関する実施状況。

それから自治体間連携、中野区が現在、どんな自治体間連携を行っており、また官民連携を行っているのか。また、ほかの自治体の事例も参考までに検討しているところでございます。

そういった中で、「違いを力に変える多様な連携」ということにさまざまご意見いただければと思います。

次回でございますが、「地域愛を育む人のつながり」、それから「区内経済活動の活性化」、最後に「身近にある文化・芸術」ということでお話をいただきたいと思っております。

ちょっと重複するテーマ、どちらのテーマなのだろうと迷う部分もあるかもしれませんが、そこはあまり気にせずに見ていただいてもいいかなと思っております。

それから資料3-3、3-4、3-5と、人口の近年の推移、また今後の推計の資料。資料4ということで、区が発行している当初予算の概要を抜粋して、今後5年間程度の財政に関する見通し、そういったものも配布しております。

済みません、ご説明は以上でございます。

○宮脇部会長

ありがとうございました。少し私のほうから補足してご説明をさせていただきたいと思っております。

きょうの部会ですけれども、今、永見さんのほうからもお話がありましたように、「区民と協働・協創する自治体」、それから「違いを力に変える多様な連携」という、一応この2つのテーマについてご意見をいただきたいということでございます。

次回第3回目につきましては、「地域愛を育む人のつながり」、「区内経済活動の活性化」、「身近にある文化・芸術」というのを審議していきたいと思っております。

この部会の趣旨ですけれども、各委員の皆様の観点から自由にご意見をまずは出してくださいということが趣旨でございます。したがってこれも今、永見さんのほうからありましたように、例えばきょうの「区民と協働・協創する自治体」、ここに該当するのかなとか、少し疑問に思われるようなこともあると思うのですが、それはあまり気にしないでください。自分としてはここに関連すると思うということであればご発言いただいて、私

どものほうでそれは整理をさせていただくということになります。

それから例えばこの部会とは別の部会にこれは該当するのかなと思われることがあると思うのですね。現実にはそういう実態があるわけですから、そういうものもあまりそれに捉われずにご発言ください。というのは最終的には全体会議のほうで、審議会のほうでそれはまとめ上げていくということになりますので、きょうのところは「区民と協働・協創する自治体」、「違いを力に変える多様な連携」というところを頭の中でイメージしながら、ご意見をいただければと思います。

まず、そうはいつでも2つのテーマを一緒にやるわけにもいきませんので、まずは「区民と協働・協創する自治体」というところを柱にしまして、大体50分くらいを目途にしながら、自由にご意見、あるいは事務局に対する質問ですね、こういったものも含めてご発言いただければと思います。

今、ご説明がありましたけれども、資料の3-1のスライドでいきますと3番から15番という、その辺になろうかと思えますけれども、その資料も横目で見ながらご発言等をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。もう自由に手を挙げていただいてご発言ください。お願いします。

○笠尾委員

質問をさせていただきたいのですが、この中野区の「基本構想 平成28年改定」というのを読ませていただいて、これのどの辺がそぐわないのか、よくできているなど思うわけですけれども。それで10年を構想してつくられているものですよ、これは。これを今の時期にやるというのは、これのどこが問題でどうなのかというそもそもの部分をちょっとお聞かせいただけるとやりやすいかなと思いますので、お願いしたいのですが。

○宮脇部会長

実はその前の計画の審議会をやったのは私ですので、私のほうからご説明をします。はっきり申し上げまして、よくできていると言われてありがとうございます。その辺はご評価いただきました。というのは区長選があったと思うのですけれども、前の田中区長は3期でしたっけ。4期務められまして、田中区長様の基本的な柱、こういったものをいただきながら計画を検討したというものです。

今回、酒井区長になられまして、選挙戦なんかでもご存じかとは思いますが、やはり新しい考え方というものが示されてきていると。そういったものを受け取りながら、変えないでいいところは当然変えませんが、そういう自治体のトップの考え方なども我々

としては評価しながら、これを見直していくと。ですから見直すところと見直さないところがあるという、政治的なというのが大きいと思います。

○笠尾委員

そうすると、基本構想というのは区長がかわれば変わるものだという事なのですかね。

○宮脇部会長

それは今、我々の行政学の中で議論があるところで、4年任期のところでは例えば5年という計画、基本構想を立てた場合に、その途中でトップがかわったならば当然考え方は変わるでしょう。したがってそれは修正するべきではないのかという意見が強くなっています。ただ、区長がかわったからといって変わらない場合もあるわけですね、正直言いますと。ですから計画期間の設定の仕方とか、あるいはそれって政治的な流れの変化があるかないかといったようなことで、必ずしも区長がかわったから機械的に見直すかどうかというご質問であれば、それは必ずしもそうではありません。ただ、やはり一度見直す、全面的に見直すのではなくて一度整理をしてみるということは大体の自治体ではやっています。

○笠尾委員

そうすると今回、区長がかわられたときに区長の方針というものがあって、それによって変わるわけですから、その区長の方針として今、どういうことがあるのかというのは何かわかりやすく示していただくといいのかなと思うのですが、それはこの場ではないですか。

○宮脇部会長

いや、この場で示すことは可能ですよね。議会で最初にお話をされているでしょうし。ただ、それに全体的に我々が捉われるわけではないのです。

○笠尾委員

それはわかりますけれども、そもそも区長がかわったことで、この会が開かれているということは、区長さんがどういう方針であるのかということをお我々は知っておいたほうが。

○宮脇部会長

それはわかりますから、今、お出ししますという話です。ただし、これは私の分野なのでちょっと突っ込みますけれども、区長がかわったから自動的に計画が全部変わるというわけではありません。ですから我々が考え方として今の区長の考え方がどういうものかをまず踏まえてみましょうというご趣旨だと思います。

○笠尾委員

そうです。

○宮脇部会長

それは当然の話だと思います。これ、何かありますよね。

○永見基本構想担当課長

前回の全体会のときに諮問をさせていただいた諮問文というものはお持ちですか。

○笠尾委員

済みません、今、持っていません。

○永見基本構想担当課長

そちらにご審議いただきたい諮問の内容であったりとか、趣旨が触れられているのですが、けれども、前回の改定が3年前といえども例えば外国人の増加であったりとか、先ほどお話しした性に対する考え方であったりとか、いろいろと社会状況が変わっている部分もあるかと思えます。そういったところを踏まえていただくということもそうなのですが、特に全体会で多様性、または協働ですね、区民の方であったり、いろいろな人たちの協働、そこから新しいものが生まれていく、スタートアップという趣旨を申し上げたかと思うのですが、そういったところが現在、区としては大事にしていきたいなと思っております。

○笠尾委員

いや、もちろんそれは当然だと思うのですが、区長がかわるかかわらないにかかわらず世の中は変わっていくので、長期で何かしら決めたとする、この部分がそぐわないみたいなものがあるのではないと思うのですよ。つまり、こちらがここで書かれていることは世の中がこう変わりましたよということが書かれていまして、だからこれはちょっとよくないよね、みたいなところは私にはよくわからないのですよ。ですからもしかしたらここで議論をした上で、これでいいじゃんみたいなことありなのですかね。

○宮脇部会長

それはあります。

○笠尾委員

ありますか。

○宮脇部課長

あります。ここで議論して、全体会でも今のままでいいじゃないという、そういうご意見があれば、それはあります。

○笠尾委員

区長さんとしては、特別これ自体に問題は感じていないということですね。

社会が変わったからもしかしたらここは、もしかしたら違うかもしれないから、変えたほうがいいのではないかなということですよ。

○永見基本構想担当課長

これがまずいから変えるというよりは、今の区長が考えている考え方というものが、より反映された基本構想にしていきたいということかと思います。

○笠尾委員

はい、済みません、ありがとうございました。

○宮脇部会長

よろしいですか。

○笠尾委員

はい。

○宮脇部会長

それでは戻したいと思います。まず最初のテーマですね。「区民と協働・協創する自治体」という、このことにつきまして皆さんからご意見、あるいはご質問ですね、事業に対しての。お願いします。

○岡井委員

済みません、蒸し返すようで恐縮なのですが、先ほどのお話のところちょっと戻りたいのですが、前回の基本構想の1ページ目のところを開くと、真ん中よりちょっと下ぐらいに、なぜ変えるかというところで、1つは区を取り巻く社会・経済状況の変化というのがありますよねと。これはいろいろな問題があるのだけど、その1つの大きな要素として区長がかわられた。そこで掲げていた公約というものは、地域住民によって、その公約がいいということで選ばれたというのが結構大きな1つのファクターであるというところがある、こういう理解をちょっとしました。

ただ、逆にいうと、それ以外の要素というのもいろいろ鑑みないといけないというのが1つあると。もう1つは、その下に「これまでの成果を検証し」というところもありまして、実際に5年間走って見ましたというところで、今までこういう方針で来たのだけど、それは正しいと思ったけど、そこがよかったのかというところを議論しなければいけないのと、あと、ここには書かれていないのですけれども、そもそも本当は前のときにこうい

うことを盛り込んでおけばよかったねということが漏れているというものがあるのか。ないならばそれでいいのですけれども、なければそれについてもちょっと見ておかなければいけないかなと思ったのですが、こういう理解のもとに話し始めても大丈夫かどうかというのをどなたにお聞きするのが一番いいかわからないですけれども。

○宮脇部会長

まず今、おっしゃられたのはP D C Aのことですか、1 つは。要するに前回つくった計画がどういうふうに進捗して。

○岡井委員

これまでの成果を検証してというのはそうです。

○宮脇部会長

この計画というのは我々今からは基本構想というところをやっていくわけですね。中野区さんは基本構想に基づいて個別の計画を立てたりしていくわけですねけれども、その個別の計画に基づいてどこまで進捗したかということについては、行政評価という名前でしたか。

○森業務改善課長

行政評価です。

○宮脇部会長

行政評価ですね。行政評価というところでやっています。ですから必要があればそういった資料なども共有することは可能だと思います。この辺のところはどうなのとか、そういうことは必要があれば資料を共有することだと思います。

ただ、前の計画で抜け落ちていたということについては、やはり今回の計画の中で、先ほどご議論がありましたけれども、前回の計画において、それではこういうところは足りなかったよねと、我々としてここで議論してですよ。そういう点が出てきた場合には、我々この部会として全体会議のほうにそれをご報告申し上げるという形になると思います。

○岡井委員

確かに盛り込み忘れというところに関しては、P D C Aの結果でわかったことか、もしくは環境が変わったということで新たな変数ができたので生まれるという、どちらか。

○宮脇部会長

こともあります。ええ、ですからそういう形でご認識いただければと思います。

○岡井委員

はい、ありがとうございます。

○宮協部会長

よろしいですか。それでは今の議論のところ、まだご疑問があるようでしたら事務局のほう、あるいは私のほうにお寄せいただければご説明をさせていただきます。

それでは3回目になってしまいますけど、「区民と協働・協創する自治体」というところで、まずはご意見、ご質問、ご議論をいただければと思います。よろしくお願いします。

○岸委員

1つ伺いたいのですけれども、いただいた資料の中で協働している例というのがいろいろ出ていますけれども、中身のほうですけれども、協働するというこの何を、どういうふうなことを具体的に考えているのかよくわかりません。例えば会議に出席しているだとか、例えば質問を受けたら答えましたというのは協働なのでしょうか。そこら辺だとあまりに軽いかかわりにすぎないと思っていますし、そこまでも含めて協働だとお考えなのかなと。

○宮協部会長

まず中野区として協働という概念をどういうふうに捉えているのか、今、会議に出るとか、そういうのも入るのかという質問です。

○永見基本構想担当課長

この資料の取り組みの事例をごらんになってのご質問かと思います。こちらは協働という概念を明確にしてまとめたものというわけでは必ずしもございませんで、区民の皆様とかかわり合いながら取り組んでいる取り組みをピックアップしているとご理解いただければ幸いです。

現時点で協働という言葉について具体的な定義というものはございませんので、そんなところもしご意見などいただければ幸いです。

○岸委員

相談しやすいとか、話しやすいという意味ではこういったことをしたいのだけれどもということで協力してくれるとありがたいかもしれないのですが、そもそもどうしたいから協働しているのかという、中野区としての何か方針みたいなものがちょっと読めないといえますか、どうも羅列されているだけのように感じてしまうのですね。かなり大きな柱として、次の基本構想の中には区民と一緒にやっていくのだから、構想というところまで対象にすると、かなり行政側が乗り出していって一緒につくるというような回路がないと、ちょっとこれだけではと思うのですね。

特に思うのは、町会なんかやっておりますと、なかなか人々というのはだんだん協力す

るといふことの力がとても弱くなっていると感じます。1人1人は特に、自分勝手になっているわけではなくて、いいふうを考えたいのですけれども、どちらかという自分自身を好きになってくれるといいですか、身の回りの人たちとのつながりはとても大事だけれども、ではそこからもっと社会の目を広げていくといふところの力はどんどん弱くなってきている感じがします。それぞれはいい人たちだと思ふのですけれども。

ですからこの前の基本構想を読んでいると、人々には自分で考えて、自分で行動して参加してほしいという気持ちは強くありまして、本当にそうしてくれるとありがたいのですけれども、残念ながら皆さんなかなか参加したり協力したりするといふ力はとてもとても弱くなっているのです。そこといふのを、それは地域の皆さんで協力して頑張ってくださいみたいにいふわり投げられても、地域にはそれをまとめ上げるような力といふのがどんどん落ちてきているのが現状なのです。

どうしてもそこで、いや、それではちょっと問題があるからこういうふうにしなさいかといふテーマがあつて、かなり行政が介入するか、何か一緒にプランをつくってやっていくような姿勢が正面から見えてこない、なかなか地域社会だけで頑張ってくださいなんて、何かあつたら応援しますからなんて言っているだけでは、とてもとても無理な話だと思ふのです。

ですから共存するとかおっしゃる以上は、もうこのぐらいやりますよとか、前に出ますよといふ何か強い意志みたいなものが欲しいなと思ふのですが、前の基本構想はそんな大問題だと思いませんけれども、むしろどちらかといふと住民みずからで頑張ってくださいといふ色彩が強いと僕は思ふのです。区長が代わつたからといふと、区の問題が変わるわけではなくて、ずっとあるわけですから、かわつたことによつて違う角度から今度、ではこういうふうにつなげていってみようといふことで今、こういうお話がされているのだと理解しておりますし、ですから今までからずっとある課題を何かこういうふうにやってみようといふことは、住民任せに過剰にしないような何か区のはっきりとした姿勢が欲しいなと私は思っています。

○永見基本構想担当課長

今の区長の考え方としまして、全体会合のときに「自治体 3.0」といふような話も申し上げましたが、職員が地域のことを知つて、地域の方々とつながつて、ともに動いていくといふことが非常に大事であるといふような考えを持っております。

ですので、この基本構想の中でそういった考えについても委員おっしゃられていたよう

な形で、区長の考えとしては入れて、反映していきたいという気持ちはあるのかなと思います。

○小池委員

よろしいでしょうか。先ほどの協働の線引きみたいのところですね。やはり区民主体でみたいな、前の基本構想というお話がありましたけれども、例えば民間のインディペンデントでも国の参加は必要ないという人たちもいれば、かかわり方のところでいろいろなニーズがあるのではないかと思うのですね。あるいは予算をつけてくれればそれでいいという人がいるかもしれないし、後援がもらえればそれでいいという人がいるかもしれないのですけれども、そういうところに対して協働の統一見解みたいなものがあるべきなのだろうなというのが1つと、あと区民の活動も多様化していく中で、行政のつくりとして縦に割られているのは当然で仕方がないことだと思うのですけれども、どこに話しにいったらいいのかなというところが、区民活動センターなのか、その先にいったときに、各セクション、どこなのかわからないということって多分これからも生じてくるのだと思うのですね。そういったことを縦に割れているものをもうちょっと横に串刺しできるような何らかの、組織の中では難しいのかもしれないのですけれども、連絡網的なものなのか、そういったものがこういう計画の中に反映されるといいのかなという印象を受けました。

○横田委員

どういうふうにアプローチしていったらいいのか、いま一つまだよくわかっていないのですけれども、協働が生まれるというときに、もちろん区の方がもっと出て行ってという話は1つあると思うのですけれども、出ていき方というのは自分がやるというよりもつなぐ役割とか、こういうところこういうところは協働したら、もっとおもしろい。例えば小学校と大学がまだ接点がないと。これは大学の役割かもしれないけど、区としても小学校と大学がつながったほうがいい。小学校と大学がつないで、商店街と、では小学校をどうつなげるのか、こういうボランティア団体があるのだけど、こちらの全く別のことをやっているボランティア団体と一緒にできるのではないのかと、情報としていろいろお持ちになって、非常に小さな組織体から非常に大きな組織体まであるのだけれども、そういったものをどうつなげていったら創造の渦がここでちょっと生まれたとか、ここでもちょっと生まれているねとか、そういうものが同時多発的に生まれてくるような道筋を具体的なアクションとして言葉にしていく、何かそんな道筋がないと、単発にこんな会議がありました、まさに先ほどおっしゃったようにそこに参加しているだけで協働していると、こ

れは協働ではないと私も思うので、何かそういう構造づくり、あるいはつながりの仕組みみたいなものはどういうふうにやっていったらいいのかなと思いました。

○宮脇部会長

ありがとうございます。

○岸委員

先に何か一緒につくって、すごくおもしろいものになりそうだというような予感だとか、わくわく感みたいなのがあって、生かしていくことができるといいのかな。

○横田委員

それもありますね、確かに。その意味では区長がこんなことをやっていきたいのだという大きなビジョンの中で、しかもそれが3つぐらい大きなビジョンの中で、この中だとこんなつながりができるのではないかみたいなものをわーと壁にみんなで書き出してみるみたいな、ワークショップ形式でやってみるみたいなことがあるといいかもしれないし。

○岡井委員

「自治体 3.0」という言葉を何かもうちょっと膨らませてみたい感じはします。もうちょっと生駒市の事例とかだけですけれど、本を読んだり資料を見てはみたのですが、簡単に言うとやっぱりまず職員の方が近づいてきて、一緒にやり始めて、参加している側の人たちが自分たちがどんどんやっている、それ自体が主体的に楽しくなってきた、またやっていって、それがどんどん正のスパイラルでよくなっていくというのが根幹にあるのかなと思ったのです。そういったものとのつながりが横田先生がおっしゃったような、ワークショップみたいなところからどういような区民と協働・協創性に対する計画を膨らませることができる、こういう議論自体がもっと進むのかなと。

○笠尾委員

よろしいですか。

○宮脇部会長

もちろんです。

○笠尾委員

今のお話はいいと思うのですが、住民が自分でどうこうというのはなかなか起こりにくいので、特に日本人の場合は自発的に動いていくということは少ないと思うのですね。かといって例えば、では民主的な教育をしましょうみたいな話ではなく、区とかがかかわったらこんなおもしろいことが起こりますよというふうなお知らせの仕方ですね。私

たちがかかわるとこんなおもしろいのですよ、ですから皆さんもっと自発的に接触してきていただけませんかねというような、仕組みとしてそういうものがあるといいのではないかと思うのですね。何かお仕着せがましく教育みたいなことにはならないで、気持ちを引き出してくれるようなシステムを持っていると、そういうようなことができたらいいのではないかと思うのですね。

○横田委員

そんなシステムがあったらいいですね。おせっかいみたいなことをやってくれるとか。

○高橋 宏治委員

ちょっといいですか、ちょうど事例の中で1から5までありますね。商店街の人は本当に、ほとんど全てにかかわっているいろいろなことをやっているのですが、まず最初に「区民と協働・協創する自体」とありますけど、このまず始まりに問題を共有するという仕組みをつくらないと絶対だめなのです。そこで起こっている問題がどういう問題があるのか。それを整理してお互いに共有するという仕組みをつくらないと、解決の方向にいかないのです。それで初めてではどういうふうやって問題を共有したらそこに対して協働できるのか、そして何をつくり上げていくのかという流れができるわけですよ。だから一番やっていてつらいのは、問題を共有する仕組みが弱いのです、区の中には。区民と問題を共有する仕組みが弱いような気がするのだね。藤永さんも高村さんも実感していると思うね。

○岡井委員

いろいろな事例に商店街のところはかかわっていらっしゃると聞いて、とてもうらやましいなと思ったのが第一です。お祭りとか身近でやられているのを見ているだけでも結構いいなとは思っているのですが、そこにかかわるといのは相当勇気が必要で、何かきっかけがやっぱり欲しい。

さっきの何か困り事なんかをどこにいてもわかる。例えばですけど何かSNSみたいなもので商店街は今こういうことをやるのだけれども、あしたまでにこういうふうにつくらなければいけないのだけどもなみたいなのをぽーんと投げかけたら、それを見て誰かがやってみようかと手を挙げたりというのは、きっかけとしてはとてもあり得る話。やってみるとうまくいくというので連携が生まれていくと、ほかにもいっぱい事例が生まれる。そういうような。なかなかちょっと、これ1つ1つを見たときに、とてもすばらしいことばかりなのですが、それぞれがやっぱりばらばらで、これを知るよしもなかったの。

○高橋 宏治委員

中野区は特殊なのですけれども、中野区の経済界、商工会議所、工業産業界、法人会、信金協議会、商店街連合会、町会というので、非常に横のつながりが深くて、1つのイベントを同時にやれるのですね。そういう区はめったにないと。それは長いことかけて私たちが、自分たちがリーダーになったらそういう仕組みをつくらうと。だから1つの問題が起きても動けるのですが、今まで問題は町会さんとの絡みがなかなか難しかったのです。というのは神戸の地震が起きたときに、商店街は大変な目に遭って、どういうものが必要なのかといたら、1位から5位まであって、では、それを何とか商店街単位でも取り寄せて、町会と一緒に防犯の組織をつくって一緒にやったらいいのではないのとやったときに、区はそんなことを考えないでほしいと。お金がかかる。こういう大変なことはやめてほしいと。それでうちの商店街は独自に軽可搬ポンプを持ったり、それから50軒に1軒分の1位から5位までの必要なやつを全部配って、自分のお金で全部やったのです、準備を整えた。つまりそこで本当は行政が入ってくるともっといいと思うのですね。

だから、その当時はまだ柔軟ではなかったのです。今、非常に行政は柔軟になってきていますね。だからとてもおもしろい状況ではあるのですね。だから何とか、まずそこで起こっている問題を共有するという仕組みをつくと。行政と区民とさまざまな団体が枠を超えて仕組みをつくる。それで共有をしたら今度発信をする。発信の方法も考える。それで発信をしたらどこどこが協働できるのか、そしてどういうものをつくり上げていくのかをみんなで考えないとだめなのです。

○横田委員

高橋委員のお話、問題を共有するというのはすごく大事だと思いますけれども、問題って実はよく知っているのは問題の中にいる人というか、当事者が一番知っていて、しかも生活から何から全部入るまちづくりということになると、非常に多くのものがありますね。だけどそれを全部区のほうで問題を整理して何とかするとやるとすごく整とんされた、つまらないといたらだめだけど、つまり現場にいる人しか持っていないような問題こそ一番発信したい。この一番発信したい人が発信するのが、エネルギーを持ってこの問題何とかしたいなと思っていて、そのエネルギーが必要なので、今、変な例を言うのですけれども、100人の問題児、問題の当事者が例えば100人いて、100人というか100種類の問題、そしてその100種類の問題をつないでいくようなネットや会合やワークショップみたいなものを、例えば100種類の問題なのだけど、大きく分けると3つに分かれるよね。では、

それを30人ずつぐらいでその問題についていろいろな観点があるかもしれないけれども、何かをやっていこうみたいなアクションに結びつけて、僕も本当に中野の商店街、すごいと思うのですけれども、観光協会とか、商店街とかいろいろなところにかかわっている、既に持っているリソースに、そういうところにかかわってもらって、そこに来る方もまさに一歩踏み込んでいただいて、システムとして何か問題を共有する形ができ上がるとおもしろいなど。

それってやっぱり中野区としても、こんなおもしろいアイデアで解決やっているよというを生み出したいのではないかと思うのです。ほかでやっていない、こんなおもしろいやり方をやっているという話になってくると、皆さん乗ってくるというか。

○岡井委員

横のつながりというのは本当すばらしいし、そういう土台があるのだからぜひ使いたいなと思います。ただ、さっきの問題ということがちゃんと共有されるということと、あとはやっぱり受け手と送り手という関係ではなくて、もう全部が一遍の場でオープンに、誰もが発して誰も見れて、誰もが返答できてというような、その中に区の方も入っているという形だと、次々に自由にどんどんと生まれていく。ウェブの場というのを今、想定してしゃべっていますが、大体何かテーマごとにスレッドが立って、自然発生的にグループができていくので、何もこういうのが出てきたというので区の方が全部受け取っていたら、それこそ本末転倒で、もともとの目的とも全く違うものになってしまう。そうではなくてスルーすべきはもう普通にスルーすればいいですし、ちょっとこの課のことかなと思うことでも違う課の方が一声なりかけていただいて、この人たちの意見がいいのではないかとかというようなちょっとした情報を言うていただくだけでも全然変わっていくのかなど。

取り組みみたいな話ではないですけれども、今、例えばSNSだとフェイスブック上で中野の子育ての向上委員会みたいなのですけれども、こういったところはただのページですよ。ただのページなのだけれども、そこから先日の区議会の立候補者全員アンケートが送られてきて、60人中59人ちゃんと書いてきてアンケートを公表されたりとかしている。あるいはちょっとしたお店の情報みたいな中野ファンというのがあるので、そこでこの地区でこういう店へ行きたいのだけと言ったら、ばーっと返していただいたり、こういうようなことがもっといろんなテーマで入って、質問できるとつながりはできるのかなど。皆さん昼間中野にいる人もいれば、昼間だけ中野にいる人もいたり、どちらもい

るとか、いろいろなパターンの生活をしていらっしゃる。どこでもちゃんとつながれるという場を設定していくのが必要なのかなと。

○宮脇部会長

米持さん、いかがですか。

○米持委員

今、ずっと聞いていて、正直言うと高橋さんとさっき話していたのですが、僕らの出番は次の会だねというのはちょっとあったのです。何かというとやっぱり我々経済界は区民の方々との接点が比較的少ないということで、そこが何か問題あるよねとさっき高橋さんとお話しして。僕らも初めて今回お会いできてよかったなと思っているのです。何かそういうところもせっかく経済界は確かに仲がよくて、さらに若手も結構いるのですね、僕らの世代というのは非常に活発に動いていますので、例えばそこにも書いてあるにぎわいフェスタとかは本当に、一時期大変なときも乗り切ってどうにかやっているというのもあるので、何かそんなのは1つ思っているところです。

あとちょっとすごく区民の皆さんに大変申しわけないのですが、ちょっと不勉強なものであまり詳しくないところではあります。

○宮脇部会長

高橋さん、いかがですか。

○高橋 佐智子委員

私は町会連合会のほうから、町会なのですけれども、やはり各団体、こちらの商工会長の方ですか、商店街の会長さんとか、それぞれのところではすごく皆さん活発に動いているように見受けられるのですね。さっきいろいろ団体の名前を高橋さんおっしゃってくださったけど。なるほど皆さんやっていることはわかっているのだけれども、それをつなげるところがなかなか接点がない。個人個人ではつながっているのだけれど、1つの業界としてのつながりが区との単体でみんなつながってしまっていて、横割りというのかな、そういう業者さんとのつながりをやっぱり話を持っていかないと、我々町会なんかも町会の中で組織としては中野区の行政にかかわりながら動いているのが町会なのです。それだけではどうしてもうまいぐあいに、不満はいっぱいありますけど、やっぱり行政を抱えてもらいながら動いているのが現状なので、それを一歩踏み出して中野区のいろいろな業界の方たちと接点を持ちながら、ゼロ歳から死ぬまでの区民の方たちをどうやって縦割りでつなげていけるかというのが、私は町会の役目ではないかと思っていますので、その辺を

今、結局きょうの会合の中に区の行政の方が皆さん大勢いらっしゃるので、何か話しづらいこともいっぱいあるのですけどね。

○宮脇部会長

いや、どんどん言ってください。

○高橋 佐智子委員

この中だけではなくて、またもっといい知恵が出てくるかなということも考えています。嫌だとかというのではなくて、やはり行政の方たちのかかわり合いというのはやはり我々にとって縛りも出てくるし、その辺がもっとたがを外して話を皆さんとしたいと思っています。

○宮脇部会長

なるほど。ありがとうございます。

○高橋 佐智子委員

別に邪魔しているわけではないですからね。行政の方たちとやりながら町会というのは動かしていただいているので、そうすると補助金の問題なんかでいろいろの話が出てくるのですけれど、我々がこうやってやらなくてももっと使い方があるのではないかなとか、いろいろ細かいことですが、あるのがなかなか行政からの縛りも出てくる、何が出てくる。

それから今、働き方改革ということで時間の問題なのですね。その辺のところ、いいのかな、いろいろなことを言ってしまって。学校とのかかわりが今、ちょっと地域でも問題になっているのですが、何か催し物をやるにしても、今、先生たちが例えばクラブ活動にも土日は働いてはいけないという問題が出てきているので、なかなか地域の活動、いろいろな年間行事で催し物をやりたいのですが、学校の生徒が加われないような状態、ことしのあれからは出てきているのですね。

それから一番今、私が「あれっ」と思ったのは防災です。防災訓練をやるのに私は上高田なのですが、やはり昼間、何かきょうあたり朝っぱら地震がありましたよね。そうすると若い人たちはもう出勤、勤めている人たちはいないわけですよ。空洞のところの年寄りばかり。それから学校では中学生がいる、それから小学生がいるときに、やはり地域で空洞の時間というときに、そういうあれが起きたときには、やはり中学生、地域の中学生ですね。そういう中学生がやはり力になってもらえる相手なのですが、この間、うちのほうで防災訓練をやったときに、中学生が毎年出ていたのが、ことし出してくれなかったの

す。どうしてかという先生たちは土日に出せない。そういうところのあれが出てきているので、「うん？」という感じできのう、おとといですが、教育長のところへ行って話をしてきましたけど、頭を抱えていました。それはこれからいろいろな問題として、まず防災から改革していこうということで、校長先生なんかにもお願いしたいということのうちの方は要望を出しております。

ですからその辺のところ、区の職員の方を何とかということになると壁ができて、これからもっと壁ができてしまうのではないかなという感じがしております。

○宮脇部会長

ありがとうございます。そのほかお願いします。

○笠尾委員

事例などでいろいろ出ているのは、大体既にある組織とどうかかわるかみたいな部分かと思うのです。普通に暮らしている人たちは入っていないので、そういう人たちはではどうするかというところに対して、あまり手が差し伸べられていないのではないかという気がするのです。ですから先ほどのSNSだとか、そういうのも1つの例だと思うのですけれども、それをうまく使いながら、ほとんどの人は商店会に入っているわけでもないし、そういう住民の方なので、そういう人が何かちょっとやりたいと思ったときに、特に日本の場合は、あれもだめ、これもだめが多いので、何かしらではそれでどうしていいかというときに、私なんかだとストリートアートのことをやりたいと思って、やっても大体全部だめなのです。全部だめなので、ではそのときにどうするかということを何か相談に乗ってくれる人がいたら、結構うれしいかなと思うのです。そういう個人の方が、普通だったらもうそれで諦めてしまうようなことを自由にさせられるような、手を差し伸べてくれるような仕組みがあったらうれしいだろうなと思です。

それは多分、それができたら中野区が有名になりそうな気がするのです。

○高橋 宏治委員

実は経済界に事務局長会議というのがありまして、経済界は事務局同士が集まって会議をするのです。この前、130周年がありました。そのときに町連の吉成会長もいて、事務局の方もいて、観光協会も事務局のところの課長がいて、私どももいて、それぞれの経済界の事務局長会議だけではなくて、町会連合会も一緒に会議をやって、さまざまな問題を共有して発信していったらどうだろうか。

○横田委員

問題の共有ですね。

○高橋 佐智子委員

至らなかったところはここにあったな。そこに今度は行政も参加して共有していただいて、行政が発信できるところ、受信できる場所があると思いますので、そこで参加をしていただくというのですか。それで新しいやっばりまちづくりガイダンスを構築しないとだめだと思って。しっくり今までではないやつをつくらないと。そんなふうにも感じました。

だから私たちは私たちのサイドでやれることは一生懸命やっている。お互いに共有していく、垣根を越えて。そうすれば町会さんが入ってくると町会さんにはかなりの掲示板や回覧板がありますから、それぞれ流れていけるのですね、ある一定のところ。

○笠尾委員

もしそういう仕組みがあると、町会に入っていれば何か質問できるわけで、そうすると町会に入る人もふえるみたいなことになるかもしれないですね。

○高橋 佐智子委員

そんな生やさしくない。今、50%切っていますからね、町会加入率は。どうやってふやすかというので頭を悩ませています……。

○小池委員

個の意見をどうやってアクションプランに落とし込んでいくかという1つ事例をお話したいなと思ったのが、私の出身地の長野県茅野市というところなのですけれども、就職をして初めてやったプロジェクトがたまたま自分の出身地のプロジェクトでして、そこは「パートナーシップのまちづくり」という取り組みを市長の直下のプロジェクトとして企画したりやったりして、いろいろ陳情、たくさん来る分野の人たちをもうまとめてしまって、1個1個聞いていられないから、専門家をちゃんとつけるので懇談会を開くからそこで話をまとめてきてくださいと。それを受けとめて予算をつけるとか、取り組みを一緒にやっていきましょうという形でやっていたのですね。

私は設計者が決まった後の文化施設をどういうふうにつくるかというところにずっと長年携わったのですが、全ての施設が老朽化していたので、ホールが欲しい人たち、美術館が欲しい人たち、図書館が欲しい人たちも一緒くたにしてしまったのですね。そこはもうガチンコで闘って面積を取り合ってもらって、どういう施設構成にするかも話し合ってもらって、もう施主のつもりで設計者と話をしなさいと市民には伝えて、我々も資料提供を

もう大学の講義なみの量、やっぱり重要な意思決定にかかわるものなので、単純に意見を言うだけでは済まされないところ、責任が出てくるので、そこをちゃんと勉強してもらうということでレクチャーをしながら、情報をそれだけ皆さんにもとっていただきながら、一緒に合意形成をしていったというプロジェクトに携わったことがあるのですね。

なので皆さんが個別に来てしまうと、当然大変ですよ。それを何かワンクッション置くところが欲しいというのが先ほどのSNSとか、そういう取り組みのことだと思うのですが、やっぱりリアルでこうやって意見をお互いの立場で聞かせるというのはすごく大事で、そこでやっぱりレフリーから行政の皆さんに期待するととても重くってしまうので、そこからして専門家、地域の専門家とか、そういった人たちが入れるような仕組みがあるとすばらしいなと伺っていて思いました。

○宮脇部会長

それで、皆さんのご意見を伺っていますと、もう自然と2つ目の「違いを力に変える多様な連携」、これ水平的な連携とか、そういうことに話がもう及んでいますので、この2の部分も含めて、全体としてさらにご議論を進めていただければと思います。

○横田委員

ちょっとどうやってこれを整理してアプローチするのかなと思うのだけど、今、出てきた個、個人ですね、連携する主体とは何なのかということ、個人が参加できるという連携のやり方もあるし、町会とか商店会とか、ある程度の組織、地場に根づいた組織みたいなものの連携というのものもあるし、大学とか学校みたいなものもあるし、企業もあるし。だからそれはもちろん、個人は個人だけということではないので、縦に貫くような、連携する主体によってどういう入り口やかかわり方、つなぎ方が必要なのだろうかというようなことも整理されるといいなと思ったのと、やっぱりどういうリソースがあるのかわからないので、きょう初めて聞いて、そんないいリソースだったらできそうではないかみたいな話はここでも出てきてしまうので、では、それぞれの持っているリソースというものがどういうものなのかも、何かリソースマップみたいなものをつくりたいと思うし、あとは、では問題って何だろうか。さっき100の問題と言ったけど、問題というものにはどういうものがあるのか、我々が手をつけなければならない問題には優先順位1、2、3でどんなものがあるのだろうか、あるいはやりやすい問題解決が1つモデルとしてこの問題を解決してみようというようなやり方もあるし、何かアプローチをどうかけたら最もうまく、それらは少しくまいくと何かシナジーを連携してわーっとおもしろい形になって、もっとや

ろうもっとやろうとなってくるし、学生なんかはそういう意味ですごく使いやすいと言ったらあれですけども、学生をこういうところに動員させてくれるといたら喜んで来るし、今、区の方にもぜひ私のやっている授業に来てほしいと言っているのですけれども、先ほど講義をされたと。大学の授業ぐらいの講義をされた。そういう講義を渋谷大学ではなくて中野のまちづくり大学校というのをつくって、その中で教えてくれる人の連鎖、つながりを埋めるようなものをつかって、それをホームページにアップして、ではこの問題についてこんな観点からやりませんかというような感じでつなげることができないかなというのを皆さんのお話を聞いて感じました。

○宮脇部会長

ありがとうございます。きょうはもうご自由にいろいろな観点から出していただければと思いますので、お願いします。

○岸委員

違いを多様に変えるという言葉ですけど、本当にいろいろな形からいろいろなことが考えられると思うのですけれども、私が住んでいるところ、自分の町会って、やっぱり自分のところの周りの地域では、私がいろいろ考えてグループをつくっていろいろなイベントを行うのですけれども、いろいろ考えていることは、まず1つは動員はかけないということと、一度やったイベントはもう二度とやらないということを一応目標にして、いろいろな時間帯、対象さまざまに多種多様のイベントをやってみるのですね。

それはどうしてかというと、人々が活動しているゾーンも興味も全く違う人たちがたくさん住んでいるわけなので、どこに何をやるとそれがフックになるかというのはわからないからやってみるのです。そうするとやっぱり当然全然違う人たちがたくさんあらわれてきて、そういう人たちと話をしていると、やっぱり何かしら自分が興味を引いたものには参加してみたいという好奇心が、ひとり暮らしであろうと、子どもがいる人であろうと、高齢者だろうとみんな持っているわけですね。そこを刺激することでやっぱり住んでいること自体が結構楽しいじゃないのと持っていけると、やっぱりまちの雰囲気が和やかになっていくだろうなというような目標を持っていて、町会の活動をしているのです。

あと最近もう1つ思うのは、きょう、先日から改めてこの基本構想を読んでいて思っていたのですけれども、中野区って30万人以上人が住んでいて、面積がこれくらい、均質性というのはあまりないのではないかなと思うのですね、地域的な均質性というのが。例えば私、東中野五丁目というところに住んでいるのですけれども、中野区民という感覚は

あまりなくて、東中野に住んでいるという感覚はあるのですが、中野に住んでいる感覚はあまりないのですね。もう、すぐ隣が新宿で生活するのはどっちかという新宿のほうへ出てしまうことが多いので。町会連合会の仕事なんかして、あちこち中野のいろいろな障害者を訪ねていくと、例えば鷺宮とかでまちをおりて歩いていますと、旅をしに来ているような、随分遠いところに来たなみたいな感覚を持つことがあるのですね。そうするとどうも地域性とか地域らしさというのはかなり中野区の中でばらばらで、均質性というのはあまりないというか、均質に全てがみんな同じようにそろっていかないとだめという感覚よりも、それぞれのおもしろさをもっと伸ばせないかなという案のほうが、みんな楽しく参加するようになるのではないかなと思うのですね。

ここに書かれているのは、もちろん平等とか公平は非常に大事なのですが、緑豊かで景観がいいまちとか、いろいろとてもいいことだと思うのですが、どこもかしこも何か同じふうにならなくてもそれはそれで楽しいのではないかと思うし、そのほうが今度あっちに行ってみようとか、こんなところが中野にあったなんて知らなかったと思えるし、そういうもうちょっと小さい単位でエリアを考えて、このエリアをどう楽しくできるかとか、おもしろくできるかと、何かそっちのほうがまちづくりもわかるのですけれども、いいような気がするのです。何か考えありますか。

○米持委員

僕も非常に今、共感して聞いていたのですが、今、まちバルって観光協会さんが中心になってやっていて、鷺宮、あと南口とか、いろいろなところがあるのですが、私の事業は中野区で、つまり坂上なのです。そうするとやっぱり鷺宮とか詳しくないのですね。行くと確かにすごくいいというのは非常に感じていて、仲間もやっているのですが、では来てよ来てよと、ただお店を飲み歩きするのです。

この間、東中野でやっていたのですが、東中野でも比較的坂上から近いのですが、知らないところがあったりとか、何かそういう違いがあっても、均一性というのではなくて何かまちというのですか、ちょっと何とっていいかわからないですけど、エリアごとに北と真ん中と南側と何となく大きく3つに分かれている気はするのですが、沿線沿いですね。中央線、あと西武線、あと丸ノ内線というところで。何かそれだけ違いがあってもいいのかなとは、非常に伺っていて思いました。

キーワードとしてそういうイベントなんかを通じて、横田先生もさっきおっしゃっていましたが、何かいろいろなゼミみたいなのをやって、そこに1回人を集めて、そこで何

か交流が生まれるのかなというのが1つ感じたところであります。

○高橋 宏治委員

実はそういう意見もいっぱいあって、行政と一緒にあって今、「まちめぐり博覧会」とい
いまして、10月の中旬から11月いっぱいにかけて中野区中、南台から鷺宮までさまざま
なイベントを組んで、皆さんに歩いていただくというイベントを組んで、ことしは7年
目かしら、何年目だっけ。

○桜井観光・シティプロモーション担当課長

今年で7回目です。

○高橋 宏治委員

そうだね。これは東京都も応援してくださいまして、東京都の都庁の1階の観光のと
ころに冊子を置いてくださったりして、年々人がふえてきているのですが、もちろん先生
のところにも協力していただいたり、全ての大学の人たちに協力していただいて、ゼロホ
ールからサンプラザからさまざまなイベントをやっていただいて、皆さんが来てくれる中
で一番すごいのは漫画でしたっけ。

○桜井観光・シティプロモーション担当課長

アニメです。

○高橋 宏治委員

アニメフェスタだね。これはもう入り切れないぐらいに中野区以外のところから人が来
たりするのですが、そういう情報を懸命になって、たしか部数も4万部ぐらいつくってい
るのですね。それを駅にも置いたりして、それからセブンイレブンにも置いてもらって
りしているのですが、それでも情報がなかなか行かないと。知らないでしょう。

○岸委員

聞いたことはあります。

○高橋 宏治委員

聞いたことはありますか。そのくらい。だから本当にどういうふうやって発信したら
いいのかも含めて、発信をしっかりできればいろいろな参加が期待できるのかなと、そん
なふうに思っています。

○横田委員

本当は自分の地域の話でいうと、もし中野がいろんなところに小さなブロックでそれぞ
れ文化を持っているということであれば、それぞれのところが自分の文化を自信を持って

発信できるようになるといいですね。何かみんなが、誰かがインタビューしてずっと聞いて回るわけにいかないし。前、行ったヨーロッパの都市で、それぞれの地域に旗を持っていて、自分のところの旗を持っていて、年に1回その旗をみんなあれししながら、衣装を着て練り歩くみたいなのがあったのですが、かけ離れた話をして申しわけないのですが、何か自分のところには、鷲宮の文化はおもしろいよねといったら、それをみんなが発信してくれるような。そうしたらそれはもうみんな違って、みんないいのだと思いますし、むしろいろいろ違うほうがこれからの社会には、まさにこの2番目の課題のように、むしろ違うから中野に行こうぐらいの感じで、中野に集まってもらえるといいなと思いますね。漫画もそのうちの1つだと思うのです。

○高橋 宏治委員

このまちめぐり博覧会、かなりの団体が参加していますよね。

○観光・シティプロモーション担当課長

そうですね、去年の実績ですけれども68団体で、イベント数は81イベント。

○高橋 宏治委員

だから本当に行政さんも懸命にしっかりやっていただいて、もちろん私たちも広告を出したり、いろいろやりますけれども、そういう流れの中で少しずつその仕組みで。

○横田委員

パンフレットがだんだん厚くなっているなと思いましたけど、大分増えてきているのですか。

○桜井観光・シティプロモーション担当課長

そうですね、第1回目からはイベント数は増えています。

○岸委員

私も2回ぐらい出たことがありますけれども、1人で全てを見るのは不可能なので、中で選んでという形になると思うのですけれども、あれも1つの切り口ですね、こんな内容のものがあるのだと。

○横田委員

まちめぐり博覧会、期間が決まっていますね。

○高橋 宏治委員

はい。

○横田委員

あれは1年を通したようなそういう、つまり凝縮してそこだけにやるのもいいのだけど、1年を通してあると、この1年、この1年はこんなところに出てみようみたいな、できないのかなと思って、それは大変か。

○高橋 宏治委員

それもいろいろ考えながら、例えば中野通りは4月に桜祭りをやりすね。そこにも行政の人が大勢絡んで一生懸命支えてもらっています。ただ、地域センターの問題は幾つかありますね。3年たったら事務局長をかえなくてはいけないとか。そうするとなれた事務局長がいないと全く身動きがとれなくなっていくとか。だから半年だけ外に出て、また戻すとかと、いろいろなことをやっているのですが、そんなことしないでずっと置いておけばいいのにと。何かその仕組みもつくれたらいいのかなとは思っているのですが、そんな形で年間を通してさまざまなものやっついこうとはしているのですね。だけどそれがなかなか思うようにいかないという部分もありますね。

○笠尾委員

そういうお話を聞いていると、違いを楽しめればいいわけですから、違いが楽しめるということはそれだけ行政から見ると自由度が広くないとできないですね。いろいろなことで、自由度がある程度ないと違いが生まれてこないの、逆に今って、例えば海外から来た人にしても自由度がないから自分らしく生きられないみたいなどころがあると思うのですよ。ですからさっきの話ではないのですけれども、どういうふうに自分が自分らしく生きられるかということ、それから人とのかかわりの中で迷惑があまりかからないような形だとか、そういう仕組みというか、自由度は広げるのだけれども危険ではないよみたいなことがないと、どうしても違いが生まれてこないと思うのですね。だからそこら辺のあんばいというか、それができるだけ自由度は広く、でも勝手に何か動かないみたいなどころができたらいいのではないかなと思うのです。それを行政の方に考えていただけるといいなど。

○高橋 宏治委員

多分行政の方もわからないかもしれませんが、高橋会長のところは上高田5町会、2つの自治会ですよね。2つの自治会がありましたね。だから7つあるのですが、そこで地域で活動している人たちが年に一度集まって共有するときがあるのです。100ぐらい来ます、いろいろな団体が。

○高橋 佐智子委員

6月にやります。

○高橋 宏治委員

つまりそれだけの5町会であっても、それだけの活動団体を抱えているわけです。だから全ての地域にその団体がいるわけですね。それがうまく横のつながりがとれて、情報が共有できたらそれは大きな力になります。

それともう1つ、私たちは商店街なので、神戸の地震のときには私たちは昼間いるのですよ、夜もいるのですよ。だからいない人を対象に防災の仕組みをつくったら大変なことになるのです。だからいる人間を対象にして防災の仕組みをつくってとお願いしたのだけれども、それもだめでした。町会さんが防災倉庫を持ってやっていますから町会に任せられていますと。町会さんだつて大変ですよ。

○高橋 佐智子委員

だからさっき言った中学生を巻き込んでと言うのですが、その中学生も働き方改革の問題で先生たちが土日は出せません。そうすると学生を出してくれないという今、問題があつて。

○高橋 宏治委員

私どもが平成8年からやっている環境を考える会のイベント、年2回やるのですが、それは五中の生徒全員出します。それはふだんの日にやるようにしています。

○高橋 佐智子委員

だからふだんの昼間でしたら先生は、要するに教科のほうのあれで出てこられるのですね。土日は休みときは出せませんと。

○高橋 宏治委員

それと一番問題は、小学校の3年生、4年生の職場体験を、それにも参加するのだけど写真は非常に難しいのです。後ろ姿もだめと親が言う。

○笠尾委員

後ろもだめですか。

○高橋 宏治委員

先生は1人1人の親から聞き取って、この子の写真は絶対だめだと写真も撮れないです。そういう仕組みになっているのです。だから地元でイベントをやるときには大変なのです。保険もかけなければいけないし、その手配もしなければいけない。そういう流れの中で、地元のさまざまな団体は懸命になって地域おこしをやっているのだね。だからそこに何と

か参画する仕組みをつくっていただけたらありがたいと。

○高橋 佐智子委員

さっきのうちの上高田の問題なのですが、行政というのですか、上高田一丁目と、それから上高田二丁目が中野の行政と野方の行政に分かれている。ご存じない方もいると思うのだけど、区長なんか知らなかったです。上高田の一丁目と二丁目、早稲田通りを大体あれして皆さん考えているのでしょうか、一丁目の下の暗渠の川のところから中野と野方の行政に分かれているのです。一丁目が、うちのほうが3分の2、向こうの中野のほうの一丁目が3分の1、行政が分かっていたら区民活動センターなんか全部分かれてくれればいいのだけど、学校も白桜小学校なのですが、野方の行政と中野の行政の子どもたちが来ているのですね。校長先生は大変ですよ。東中野は中野だし、うちのほうは一丁目野方の行政、消防署、警察、全て分かれているわけです。学校が両方の行政の子どもを預かっている。ですから何かイベントをやるのでも何でも、岸さんと私は一緒に学校の担当なのですが、全然交流がないものね。

○岸委員

そうですね。

○高橋 佐智子委員

同じ町会でありながら。だからもう丸きり分かれてしまう。だからすごく難しい。それで今度上高田小学校と新井小学校が統廃合して新井に行くので、今度上高田の5町会あるところの一丁目だけが白桜小学校、あの上高田小学校の子どもは新井に行ってしまうのです。そうするとそこでまた区民活動センターが1つできていたものが分かれてしまっ。これがどうなるかちょっとわからないのですけれども、学校が立ち上がってみないと。だから本当に難しいのです、何かやるにしても。その辺を考えていただかないと本当に地域としては難しい問題をいっぱい抱えているのですよね。

○笠尾委員

勉強不足で申しわけないのですが、何でそんな不合理な状態ができてしまっているのですか。

○高橋 佐智子委員

結局昔、農道を分けたのがそのままずっと。だから昔の話。早稲田通りは後からできた通りなのね。そういうあれみたいです、よくわからないけど。だから区長にも聞いたら「えっ」と言っていたし、今度の酒井区長も話をしたら「えっ」と言っていました、

びっくりしていました。でも、それを直す方法がない。

○岡井委員

本当に物すごく細かく分かれています。

○高橋 佐智子委員

例えば中野と新宿、西新宿のあそこのあたりなんてすごいですよ、行ってみると、哲学堂のあたり。もう入り組んでいます、中野と新宿が。本当に昔のままがそのまま、いまだに新しい行政のやり方、立ち上げてくるから、住んでいるほうがかなわかい

○横田委員

まちの変革をいろいろ考えて、これからの 10 年を考えると、委員の方がみんな話をしながら、区の方がそちらで、こちらを見て記録をとったりしてくださっているのですけれども、いろいろな話の中には行政や区の方に対する、こうあってほしいとか、いろいろな要望もあるわけですね。やっぱり同時並行に区の中で会議でやっているのかもしれないですけれども、どう変わろうかという会議をこのまちづくりのこれに合わせて立ち上げていただいたり、あるいはこの中に何人かはここ、そちら側でなくてこちら側の中に入ってきてもらうこともできないのかなぐらいに思うのだけれども、もっと一緒にやるならまず区と、区の方に組織を背負ってというよりは自分の考えで入ってきてもらうようなことはできないかなとちょっと思いました。先ほどから対面して 3 列になっているけれどやっぱり最重要なステークホルダーですから、だから、みんなで考えてもらったのをどうするのかということもちろん仕事ですからあるのだけど、もっと入って、一歩と先ほどおっしゃっていたけど、それはこの会の中に入ってきたり、もう 1 つの区の中で委員会が立ち上がって、それが時々一緒になって話すぐらいのダイナミックなほうがいいなと思いますね。

○笠尾委員

そうですね。

○小池委員

済みません、若干腰を折る発言になってしまうのですが、「違いを力に変える」ってすごくいい言葉なのですが、渋谷区の基本構想のままで大丈夫ですか。著作権はないと思うので、それはそうなのですけれども、ちょっとキャッチーな言葉に捉われるというよりは、すごく本質を捉えてうまく表現しているいい言葉なので、これを超えることを考えるのはすごく難しいと思うのですけれども、やはり何らか考える必要があるのではないかなと感

じました。

○永見基本構想担当課長

おっしゃるとおりで、基本構想に実際に言葉を考えるときには、またちょっと考える必要はあるかなと。

○岡井委員

違いを力にということかというと、違いというのは人がいろいろな側面を持っているということなので、力にということになるとこの人たちが集まったり把握したりしないと力も何も生まれないので、そういう場の設定というのが僕たちが自由にできたり、区の人がそれを全部設定、大変だと思うのですが、自由にしやすい、連絡が付きやすい、何かそういうようなことがあると、もっといろいろできるのかなと思います。

○笠尾委員

そうですね、新宿区とかはそもそも違うので、それをどうやって一緒に話し合わせるかみたいなことにすごく苦労しているのですね。だから違いを生めば当然そっちのほうもやらなければいけなし。力にしていくというところに焦点があるか、違いをしっかりとつくっていくほうに焦点があるだとか、その辺を区としてはどちらに力、重点があるのかみたいなことを確認したほうがいいかもしれない。

○小池委員

少し話がそれてしまうのですが、やっぱり自分の専門分野が文化・芸術なので、そのところで資料を拝見しながら思っていたことがあるのですがけれども、これまでの基本構想とかの位置づけの中でも、文化ってあまり力が入っていないところなのですが、中野区は文化振興条例の計画もまだないですね。2005年に懇談会が行われて、どうやらそのまま終わってしまっているのかなというのをちょっと調べて拝見していたのですが、中野ゼロも指定管理者の方が頑張って事業をされているのは見ていてわかりますし、毎年おなじみ、しまじろう君は楽しみにしている周りの者もおりますので、あれなのですが、指定管理者が事業に取り組む上で指標になるものというのが、やはり文化振興計画とかであるべきで、それがいい中でやっているというのは、ご苦労もいろいろあるのだろうと思いますし、豊島区さんぐらいいなくなってしまうとまた別なのであれですが、東アジア文化都市でしたっけ、ことしいろいろなイベントをやったりされていますけれども、そういったところとどうしても比較して見てしまうと、挙がっている名前も野村萬齋さんとか世田谷パブリックシアターの芸術監督ですから、お隣のお隣の芸術監督

さんをおかりしているのでいいのだろうかとか、やはりお買い物の事業ではなく、中野だからできるオリジナルの事業をどうやったら指定管理者につくってもらえるのかとか、そういったところもやはり要綱の中に位置づけることができるけれども、指標としての文化振興計画があってしかるべきなのではないかなと個人的に思いました。

やっぱり文化って多様性みたいなところを考える上で、すごくインパクトを持っているものだと思っていて、ナント……の取り組みとかありますけれども、ナントと中野はすごいなと思ったけど、ナントってやっぱり世界的に有名な創造都市ですから、なので中野も頑張らないといけないのではないかなというふうに思いました。

○宮脇部会長

今の文化関係というのはどういう状況なのですか。計画だとか、条例だとか、そういうお話が今、出ましたけど。

○藤永文化・国際交流課長

今まではあまり、私も4月から着任。部署自体はそもそもなかったものでありまして、文化施設といっても社会教育施設の位置づけがすごく強いとかありますし、個人的になりますけれどやはりちょっと、前区長時代のときからある意味スタート時期において財政がかなり厳しくなった時期がありまして、23区で一番財政の厳しくなった。文化事業を削っている印象がすごく強いのはあります。

経済状況もありますけれども、新区長の中でそれを出していきたいということがありますので、それが豊島区と比べて東アジア都市までいくかということ、そこまではいつていないのですけれども、計画の前にまず基本構想でもそういうような位置づけ、そして基本計画の中でもそういう位置づけであり、そこから個別の計画の中でどう描いていくのか。これまでの話もそうですけれど、まず最初の基本構想の中でのスローガン、そういうものをまず議論していただきたい。

○小池委員

結局本来あるべきのところは、大体財団を今でも持ち続けているところが多いわけですが、中野区さんはもとの公社というか、スポーツ系の財団を既になくしてしまっていますし、そうなってくるとその受け皿になるのはどこなのだろう、今の指定管理、民間がやはりこれを企画してくれているわけで、そうなってくると民間の人たちとどういうふうに目標を共有して、文化・芸術の振興に取り組んでいくのかという視点でやらざるを得ないのだろうなと思います。

○岸委員

そもそも、ジャッジするような部署そのものがあまりなかったというところだろうというのは、それは見ていけばわかります、ジャッジがされなかった。ただ、芸術ってお金がかかるように見えるけど、実はすごく安いのですよ、効果を考えると。物すごく強い効果があって、演劇でもそうだし、音楽でも絵画でもそうですけど、物すごく強い効果があります。

先ほどちょっと研修の話もされていましたが、例えばこういう会議室の空間なんかも、ここはふかふかのじゅうたんがあって、暖炉なんかがあったりなんかすると、みんな話す内容も変わってくるということが、調和的になったりとかするので、例えばこういう空間そのものを豊かにすることで、会議内容って最初から高いレベルから始めるわけです。そういうような効果ってやっぱりあるわけなのです。

だからそういうところで単純にお金がかかるからカットとかではなくて、それってやっぱり後々すごく積み上がっていくと中野区のプラスにもなるし、かかわっている皆さんの仕事としておもしろいと思うし、ちょっとそこら辺は考えられたほうがいいのではないかなと思います。

○横田委員

中野区にはおもしろいいろいろな飲み屋街があり、いろいろ漫画があったり、おもしろいものがあって、何かそれを文化だから施設といったようなものでやろうとか、イベントでやろうとするとどうしてもやっぱりハードルが、その施設に行かなければいけないとか、つまり日常生活性が下がってしまうのですね。意識のある人はそこに行くけど。だからもっとまちを会場に、先ほどストリートのアート祭みたいなこともあったし、まちをもっと会場にできないか。それはアートの会場であったり、私、先ほどの加わっていた、ヒューマンライブラリーのことを自分でちょっと紹介したと思うのですけれども、やりたいなと思っているのはカフェで同時多発的に1人や2人、例えば目の見えない方がカフェに座って、自分の人生のストーリーを語る。こっちではLGBTの方がお茶を飲みながら、そこに集まってきた人と語るとか、商店街の中でお店の軒を貸してもらって、そういう人たちがいて、同時多発的にヒューマンライブラリーという、人間図書館、人を貸し出す図書館が1週間ずっと中野でやっているとか、あるいはパラリアートも随分やっているの、そういうものが中野のまちをどうやったら会場化できるか。そういう工夫みたいなものは多分いろいろな芸術、工科大とかアートにかかわる方がたくさんおられるので、まちをも

っとそういう次元をちょっとずらす。まちの次元をずらして創造性をつなぐような企画を出すと、おもしろいと言って全然今まで触れ合ったことがないような子どもたちがおもしろいと言ったり、高校の先生がおもしろいと言ったり、集まってくれるきっかけにできると思うのです。

だからお金をできるだけ使わないで、まちを会場にして何が引き起こせるかみたいな、ではコンテストをやってみましょうから始まったり、何かそういう工夫はまだまだできるのではないかなと思います。

○宮脇部会長

先生、どうですか。

○笠尾委員

そう思いますよね。お金を使わないほうが人がかかると思うのですよ。

○横田委員

継続性があるし。

○笠尾委員

そうなのです。お金を使わないで仕組みをつくっていくみたいなことを考えていただけると、先ほどの自由度も大きくないとできないですけど、そういうことができればおもしろいですよね。今、カフェの話もすごくおもしろいなと思って。

○横田委員

せっかく四季の森公園があるから四季の森公園まちづくり大学をあそこで、雨が降ると大変だけど。あそこの公園で芝生でみんな座ってそういうのをやろうよみたいな、できそうだなと思うし。

○高橋 宏治委員

商店街ってとてもおもしろいのは、西武線のまちづくりをやっているのですけれども、そのためにいろいろなところに見学に行ったのですね。それで駅周辺でも商店街が寂れているのは飲み屋街になったところですね。だからおもしろいのは表の商店街と陰の飲み屋街というのですか、それが一体化になっていないとまちって難しいのだなというのを実感しましたね。

だから先ほどの全体をというのはとてもおもしろいと思うのですね。だからお酒飲むとき人が見ていないからどこかその辺でというような空間がないと人は来ないのだね。そうか、きちんとやり過ぎると人は集まらない。そうなのです、だから光と陰を同時に抱え

て地域全体というのがとてもいいのかもしれない。

○横田委員

おもしろいですね。

○宮脇部会長

ちょっと余談ですけど、皆さん札幌でやっている「よさこい」ってご存じだと思うのですね。「よさこい」は実は最初のときは学生だけでやっていたのです。学生が道警と話し合っていて、道を占有してずっとやっていた。大通公園も同じように自分たちの努力でやっていた。今、どうなっているかという、今はもういろいろな利害関係が入ってきてしまって、お金が入ってきてしまって、それでもう学生はほとんどひいているのです。我々札幌に住んでいる人間は「よさこい」の時期は大通に行かないと。完全に分離をさせてしまっているのですね。

ですから今のお話を聞いていて本当にそのとおりで。先ほど先生が自由とあと規律ということも言われましたけれども、全く本当にそうなのです、自分たちでそれをやっついていかないとどこかで続かなくなってしまうのですね。だから今のお話は本当そうだなとちょっと感想めいたことで恐縮なのですけれども、済みません。

どうぞ、まだちょっと時間がありますから。

○高橋 佐智子委員

杉並区なのですか、高円寺なのでしょうか、素人のジャズの人たちが集まってやった、ああいう形ってすごくいいな、うらやましいなと思って見ているのです。

○横田委員

あれはただで見られるから、有料のところと一緒にやっている。

○高橋 佐智子委員

ただで見られる。やっている人とか、ストリート何とかというのですか、昔に返ったああいう出し物がちょっとした広場、ちょっとしたあいている商店街のお店なんかを使ってやったら、結構みんな子どもたちから大人から集まるのではないかなと思います。

○横田委員

確かに。

○高橋 佐智子委員

そういう意味では杉並はすごく、もう全然中野とは違う、まちをうまく使っているという感じがするのです。あれなんかもそうですね、夏の踊り、あれは高円寺ですか。

○宮脇部会長

阿波踊りです。

○高橋 佐智子委員

すごいイベントになってしまいましたけど、最初はやはりまちでやっていたのがあれだけになったのではないかなと思います。

○宮脇部会長

いかがでしょう。

○岡井委員

違いを力にというところ、ただ、ちょっと芸術の流れだったので、それも絡めた事例みたいなのを話しますと、渋谷区で「シブヤフォント」というのがありまして、これは何かというと渋谷区の障害者の福祉施設で絵をいろいろかいてくれて、結構ネイティブな感じの絵がいろいろ生まれるのですが、それを同じ渋谷区の桑沢デザイン研究所というところが、学生さんとかがデザインを起こして、案にして、それを渋谷区がコントロールして著作権をいろいろホームページとかで供与するみたいことをやっていて、それが買われると当然付加価値がついた商品になっているので、利益が生まれて、それがいろいろなところに分配される。その作業所の人の工賃というのですか、そこにも上乘せされて入ってくるみたいな、そういうようなこと。どこかに誰かの物すごく莫大なコストがかかっているわけではないのだけれども付加価値は生まれて、それぞれの人がやりがいとかやった感が生まれてみたいな、そういうようなことも芸術という、いろいろな人というか、合わせて1つ分野としてつくれるのかなと。

ちなみに渋谷区役所の壁とかも全部その「シブヤフォント」で埋め尽くされていて、「シブヤフォント」ではない壁とかを探すほうが難しいぐらい。

○岸委員

ちょっと前から思っていたのですが、区役所の1階の福祉売店というところがあって、いろいろな作業所の人たちがつくったものを並べてあるのです。大体来たらのぞいてみるのですが、技術的にはレベル高いなと思うのですが、つくっているものがやっぱり今、これつくっても誰も買わないのではないかなというのをやっぱりつくってしまうのですね。デザイナーが入っていない。間に入ってこれ、おもしろいかもというちょっと方向を変えてあげるだけで、あれってすごくおもしろいものになり得るのかなといつも思うのですが、何とかならないものなのかなと思う、よくわかりませんが。

○岡井委員

そういう人たちが本当はそういうスキルがあるのだよと区の中にはいっぱいいるはずで、ただどこにいるのか、そういうことをやってほしいのだということがこれではわからないので、これが何か、どちらかからでもできて、見られるようになっていくと、何かが始まるのかなと。

○岸委員

もったいないなと思うのだけど。

○岡井委員

もの足りないと思う。個別にすごくおもしろい人がいっぱいいるのだから。

○岸委員

グループホームにちょっと行ったときに、編み物がものすごくうまいおばあちゃんがいるのですね。ちょっと問題があるので、職員の人が毛糸玉をとにかく渡しておけば割と静かだからというので、やっている人がいて。ただ、その人を見ていると本当にうまいので、マフラー編んでくれるかなと思って、こんなデザインのこういうマフラーだったら編んでくれますかねと言ったら、すぐできちゃうよと言われて、毛糸まで持っていったのですが、ちょっと気分が変わってやらなくなってしまって残念だったのですが。何かちょっとしたところでそういう技術を持っているけど、つながっていない人って山ほどいますね。そこを何かおもしろく見つけ、お互い楽しくなれる仕組みというのはすぐできそうな気がするのです。コーディネーター不足なのか。

○笠尾委員

今、私は綾瀬市で鉄工所の、私がやっているのはキャラクターなので、キャラクターを使ってどういうふうにコミュニケーションをよくしていくかというようなコンサルテーションをしているのですね。その中で鉄工所は3K職場とされているのですが、最近は結構きれいになっているのですね。結構きれいになっていて、なのでイメージアップをどうするかという話と、あと会社の中で障害者を雇用しなければいけないというのが今あって、2年間は補助金が出るけれども、その後はその会社で何か仕事をつくらなければいけないということなのです。なのでそこで、ではどういうことをやってイメージアップにもなって、何かというようなことで考えていたのが、実はこれ、溶接工ってウェルダーというのですが、「ウェルダーマン」という名前をつけたキャラクターにして、これを売り出せないかみたいなことを考えているのですよ。これ自体をつくるのはそんなに難しいこと

ではないので、今、もう既につくってみたり、販売してみたり、ちょっと綾瀬市役所とかで協力してもらってそういうことをしようかなという状態にはなっているのですね。

ですから、いろいろな今の雇用のこととかも含めて考えていくと、いろいろなことができそうな環境にはあるなと思っているのですね。

○小池委員

先ほどの文化・芸術の振興計画の話を語ってしまいましたけれども、割と中野ってよりポップカルチャー寄り、国の施策の中に位置づけられているいろいろなジャンルから漏れている人たちがたくさん集まっているところだと思うのですね。だから、そのおもしろさというところをもう少しすくい上げられるといいなと先生のお話を伺っていて思いましたね。

○宮脇部会長

そのほかご意見がありましたら。きょういただいているご意見につきましては、きょうはいろいろなご意見をランダムに出していただくということで、私と事務局のほうでこれについては共通事項を含めて整理をした上で、またご議論をいただくという、そういう形をとっていきたいと思っています。

皆さんのほうからご意見ございますでしょうか。

○横田委員

意見ではないのですけれど、いいですか。

○宮脇部会長

どうぞ。

○横田委員

ちょっと意見ではないのですけれども、実は私、今、文科省の科学研究をとっていて、それが中野のダイバーシティを推進するという、まさにそういうタイトルの科研なのです。中野とつけたのは、具体的な場合を設定しないと研究が研究だけになっちゃうとつまらないので、3年間の研究助成が出るのですけれども、3年間で中野のダイバーシティがどういうふうにも実質的に推進されるのかをやってみようということで、今、授業というのを立ち上げて、学生たちが今、ダイバーシティの基礎を学んでいるところなのですけれども、この後、学生たちはグループに分かれて中野に住んでいる方、あるいは働いたりしている方で、例えば車いすで中野に住んでいる人とか、全盲で住んでいる方とか、LGBTの方が、簡単に挙げればそういう人たちが中野でどういう生活をしているかという、中野

における自分のライフストーリーを言葉にしたり映像にしたりして、学生たちが追いかけているながら、中野のその人たちの生活を紹介するようなものをつくろうとしているのですね。

そんなことをやって、授業をやったり研究調査をやったりしながら、地域でダイバーシティが本当に浸透する、本当に浸透するという意味は基本的には、最終的にはそこに住んでいる人が中野のまちってダイバーシティ、いろいろな人が住みよいまちだよねという肌感覚を感じられるようなまちになるためには、なるということは一体どういうことを意味するかという指標づくりとかやっている、やり始めた、やっているというか、この4月からです。

○宮脇部会長

科研もこの4月からですか。

○横田委員

ええ、科研はこの4月から。ちょっと1つお願いがあって、学生たちをこれから5人ぐらいのグループでいろいろな中野の人を訪問して、そういうできるだけ多様な方なのですが、訪問して人生の話を聞いたりしたいのですけれども、ぜひ中野でこの人だったら協力してくれると、この人を出したらおもしろい、元気になるという方がおられたらぜひご紹介いただけませんかでしょうか。学生たちが実際に交渉して、その方と一緒に作品としての人生の物語や映像をつくって、少なくともうちのホームページに載せたりしていきたいと思っています。

そんなことが学生も1つの人と人とを結びつける役割を果たすことができると思うので、こんなおもしろい人が住んでいる、身近にこんなおもしろい人がいるよという話をどんどん紡いでいって、それを作品にしていって、もしかするとそういうものは芸術作品になるかもしれないし、「中野の100人の物語」みたいな本になるかもしれないし、そんなものを次から次に投入していくと、まさに作家と芸術家と大学と、幼稚園までつながり、福祉の施設のつながりみたいなことができてるのではないかなと思うので、私、この3年は少なくともこれに全力投球するつもりなので、何かいいアイデアがあったら皆さんからもいただきたいし、学生を派遣もできると思います。

済みません、半分は自分のですけども、よろしくお願いします。

○高橋 宏治委員

J：COMで「中野人図鑑」というのをやっているのですね。

○横田委員

ああ、いいですね。

○高橋 宏治委員

中野で活躍している人、何人ぐらいやっているかな。40～50人。

○米持委員

今、40ぐらいではないですか、30は超えています。

○高橋 宏治委員

そのものについて出ていますから、いろいろな形が。全部見られますから。

○横田委員

ああ、いいですね。

○高橋 宏治委員

一度見ていただいて。

○横田委員

ありがとうございます、「中野人図鑑」。

○高橋 宏治委員

「中野人図鑑」ですね。それと先ほどの車いすのお話だったのだけど、私どもの西武線のまちづくり協議会では、車いすの皆さんとまち歩きをしたのです。もちろん行政の方も参加していただいたのだけれど。そうすると全く違うのですね。駅の改札口は車いすの目線からは見えないのです、掲示板が。だから切符を買えないのです。「えっ」と思ったのですね。それに公園の車いすが入るトイレがありますね。1人ではあけられないのです。今、ボタンでやればあくのだけど、旧式なので開けないといけない。つまり介護者がいないと使えないということです。それと表示ももう本当に古くて、どこが男性なのか女性なのかわからない。多分行政の人は足で回っていないと思うのですよ。私たちがそういうふうに行った結果、これは大変なことになっている。本当はそういうのを点検する仕組みは行政も持っても、あっていいはず。

○横田委員

そういうのを見つけたら投稿できるサイトをつくる。どんどんそういうのを見つけて投稿する。

○小池委員

そういう不便な部分があるというのをそこに住んでいる人間が知っているのも多分大事

なことで、いらっしゃったら助けることができるわけですよ。なので整備の手が回らない部分は人間の手で補えるはずで、何かそういうところで助け合っただけ同じコミュニティに住んでいる実感でつながるのではないかなと思いますね。

○高橋 宏治委員

それで行政がお金がなくて大変なら、地域がお金を集めてつくったらいいわけですね、男子トイレ、女子トイレって。いろいろなことができるはずなのです、行政だけに任せずに。

○横田委員

ただ、男子トイレ、女子トイレだけでなく、今、第三のトイレが必要なのですけれども、何かそういったものを例えば芸術、学生に考案してもらって、さわってわかったり、見やすかったり、男女だけで分かれられないものとかもデザインやなんかやってくださる方がいらっしゃるのではないですか。

○高橋 宏治委員

先ほど高橋会長の言った暗渠の問題もとても大変な問題で、この前は暗渠を歩いてのまち歩きをやってみたのです。物すごい問題が。

○高橋 佐智子委員

車いすなんか通らないですよ。

○高橋 宏治委員

通らない、物すごい問題があります。もうすれ違えないのですから。だけど自転車ですごい勢いで来る人もいるのです。これは大変ですよ。だから「とまれ」というのは、暗渠は道路ではないからつくれないのです。もともとがどぶ川なので。そこには「とまれ」が置けないのです。「とまれ」と置かないと危ないところがあるわけです。そういうときどうします、できませんよね、行政もできないし。だからそこに住んでいる人が知恵を出してやるしかない。

○高橋 佐智子委員

あれ道ではないのです。

○高橋 宏治委員

道ではない。

○高橋 佐智子委員

道ではないために昔は玄関がつかれなかったのですけど、今、何か変わったみたいでつ

くれるようになったみたいですね。

○高橋 宏治委員

どんどんつくっちゃって。

○高橋 佐智子委員

そのために物すごく不便を使っている人たちは感じていると思います。いつ変わったのか、私、知らなかったのだけど。玄関をつくって出入りができるような形になってしまった、こんなところ。

○高橋 宏治委員

あそこは非常に行きどまりの道で、あかない道で、それから塀も高かったのですけれど、大妻が建てかえるときに地元の住民とまちづくりが立ち上がって、大妻と交渉して、災害が起きたときには校庭に逃がしてほしいと。だから門を幾つかつくって、それで抱え込んでくれないかという交渉をしたらオーケーになりまして、それをつくっていただいて。

○高橋 佐智子委員

二丁目ね。

○高橋 宏治委員

緊急時には鍵を壊して。

○高橋 佐智子委員

あけてもらうということ、あそこが避難所になっていますからね。

○高橋 宏治委員

それで少しセットバックしてもらって、少し広くしてもらえたら非常に開放感ができて。それも住民が立ち上がらないとだめですね。

だから問題は住民がまず結束してその問題を共有して、さあ、自分たちがどうしようかというところで、自分たちがやれるところはやらないとだめですよ。それから行政にお話をしないと難しい。

○宮脇部会長

先ほども少しお話がありましたけれども、委員の皆さんからはいろいろなご意見というのはいただいていますので、これをまとめていきたいと思うのですが、杉本さん、聞かれていてご感想を。

○杉本企画課長

個別にいろいろとお話を伺ってということだったのですが、私の所管の部分、先ほど障

害者の方の作品のお話が出ていたかと思います。私の所管でふるさと納税というのがありますので、何かふるさと納税の返礼品に使えないかなと。それが障害者の雇用創出であったり、クラウドファンディング的なもの、またアール・ブリュットで結構値が張るような作品をつくれるような方もいらっしゃると思うので、そんなのもちよっと考えてみたいなどという、そんな感想を持ちました。

○宮脇部会長

ありがとうございます。

高村さん、何かありますか。

○高村広聴・広報課長

私は、今はこの仕事なのですけれども、前職がまちづくりでしたので、先ほどのお話はよくわかっていまして、先ほど笠尾委員がおっしゃっていた、コーディネート役みたいなものがちょっと形になりかけたところだったかなと思っています。なのでそういうのがやっぱり必要なのだなという皆さんと共通していたのが1つあります。

それから、今の仕事でいいますと、先ほど横田委員のほうから「人に着目して」というお話がありました。区のほうも今、区報のリニューアルなどを始めて変えているのですが、地域の人たちとか、いわゆる目立たない人たち、でも実はいいことをやっていますよというのを、人につないでいくということをやっていこうと思っています。そこに着目した形で発信していく。それを区報でやったら、先ほど「人図鑑」の話が出ていました。ペースメーカーでやっていく、個人でやるみたいなことをやろうと思っていますので、そういう動きは多分ここでお話になっているのと同調できると思いますので、ぜひ連携してやっていきたいなど、そんなふうに感じました。

○宮脇部会長

ありがとうございます。それではほぼ時間が来たのですが、最後にご発言ございましたらお願いします。

○高橋 宏治委員

では、いいですか。ちょうどアール・ブリュットの話が出たので、経済界としては美術館が欲しいよねと。どうしたらいいだろうかというのがずっと出ているのですね。何しろ価値あるものを置くので、警備の体制、防犯の体制が大切で、それには相当お金がかかってしまうので、どうしたらいいだろうかというのが、経済界では課題。だからその辺で何かおもしろい、この建物でこういうものをつくったときに、そういうものをやれたらいい

ねというときには、ぜひ経済界にも声をかけていただくと。やれたらいいね。

○宮脇部会長

次回、きょうもお話に出ていますけれども、「身近にある文化・芸術」というところで、きょう後半部分でご議論が出たところなんかは、またもう少し深掘りをしたいと思っています。

先ほど冒頭事務局から提示がありましたように、全部つながってくるのですが、
「地域愛を育む人のつながり」、「区内経済活動の活性化」、「身近にある文化・芸術」という、そういうところに視点を少し置きながら、次回の審議を行いたいと思っています。

また、次回なのですけれども、5月30日木曜日、皆様からお時間をいただいております、19時からということで、会場については中野区役所ということですから、具体的な場所につきましては、また別途ご連絡を差し上げるということになるかと思えます。

それでは、事務局から連絡事項をよろしくお願いします。

○永見基本構想担当課長

今回の開催通知などは、現在、郵送で資料を送るようにならせていただいておりますけれども、メールで送っていただきたいという方がいらっしゃいましたら、この後、職員に申しつけていただければと思います。

それから、お車でいらっしゃった方はいらっしゃいますか。いらっしゃらない。

以上です。

○宮脇部会長

ありがとうございました。本当に遅くまでありがとうございました。以上をもちまして、中野区基本構想審議会の第2回の部会は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —